

事業No.	1	事業名	我孫子北地区コミュニティ施設等のあり方検討	担当課	市民協働推進課 市民課
主な意見(委員)					
各論表記注釈(つくし野館=近隣センターつくし野館、ホール=つくし野コミュニティホール、SC=行政サービスセンター)					
<p>■総論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善が必要な状況。我孫子北地区の市や関係団体の他施設全般での集約の視点も持ってほしい。 ・廃止を前提とした要改善。今後検討を進めていくには代替手段や移行手段についてよく精査し明らかにするべき。厳しい財政状況からの整理では、廃止もやむを得ないと思うが3施設とも廃止では地域に活力がなくなってしまう。残すところは残すことも考えながら、まちづくりを前提に考えてほしい。 ・時代の変化への対応は必須であり要改善。施設の老朽化や高齢化により我孫子北地区のコミュニティ自体が変化しているのでその変化に対応した取組が必要。これらの検討にあたってはコミュニティ施設等のあり方検討とあるので、コミュニティ力(自治力)を見据えながら、住民との対話を十分に行ってほしい。多様な意見があるのは当たり前で、異なる意見からの合意形成は困難だが、合意形成の努力こそがコミュニティ力を育むこととなると考えるからである。 ・改善が必要。地域課題の解決のためには、課題の大小にかかわらず話し合いの場を持つことが重要。本課題の解決にあたっては、限定した地域での解決にこだわることなく、我孫子エリアなど広範囲で考えることも必要。市のまちづくりにおいて地域コミュニティは欠かせない。国道6号線をはさんで北と南に分かれるのではなく、地域のコミュニケーションをしっかりと考えて地域一帯で改善してほしい。施設の閉鎖に伴う代替サービスの提供、例えば移動図書館をうまく活用するなど代替手段を準備してサービスを整えていく案もあるのでは。 ・現行通りで良いとはいえ改善が必要。財政状況だけでいえば3施設とも廃止とも整理できるが、今後のまちづくり、地域の高齢化を考えると安易に3つにすべて進めるのは難しい。今までどおりの形とはいかないため、見直しを進めつつ縮小と持続可能な運営を考えてほしい。いきなりゼロではなく、少しずつ見直しをいながら改善を進めてほしい。その際には、住民の意見はよく聞いてほしい。 ・時代の変遷や財政状況を考慮し全般的に見直しは必要。住民の安全を大原則として見直しを進めてほしい。検討にあたっては住民の二分化も考慮する必要がある。地元でまちづくりを推進している方と都内通勤者、さらには子育て世帯とのバランスもみるべき。施設運営を継続するのであれば安全性の問題は大前提。これまで賃料はあまり大きく変わっていないことから、耐震の対応が行われているのかなど確認が必要。 ・コミュニティ施設2つは要改善。つくし野SCは我孫子SCとの一本化を検討するべき。本課題の検討がなぜ必要なのか。これについては我孫子市公共施設等総合管理計画から考えても、施設の面積を減らすことは必要となる。こうした必要性や人口減少、財政状況を前提に、つくし野だけが選ばれたのではなく全体を眺めた結果として同時並行で全市的に進めるべき課題であることを関係団体や住民に説明し納得性を高めるべき。利用団体が一定程度ある中で、合意形成を図るためには全体像や個別計画含めてしっかり調整するべき。近隣に空きテナントがあるので、しっかりと意見交換を進めて問題ないのでは。 ・コミュニティ施設2つは要改善。つくし野SCは代替施設の維持費を考慮した検討を進めるべき。 					

■各論

【つくし野館・ホール】

・夜間利用がないことは課題。過去の経緯をふまえても費用対効果を鑑み検討が必要。会議室については代替施設もある。コピー利用やフリースペースについて代替手段が見据えられれば廃止もやむを得ない。

・ホールは使い勝手の良さや使用団体のことも考え今後もうまく活用してほしい。

・マンションが多く会議室は代替施設があったとしても広いホールのような場所の確保は難しいかもしれない。また、ホールは交流の場として人口減少が進む今だからこそ重要となり得る。

・自然災害にしっかりと対応していけるのかという観点のもと、確認と見直しが必要。ホールについては湖北地区公民館も含め市には別のホール施設もあるので、市民の視点で見直しを進めてほしい。

・活動の場が失われぬよう配慮してほしい。既存のコミュニティや管理運営など現状の活動が廃れないように改善を進めてほしい。見直しをすることによってより強いコミュニティが形成されてほしい。

・つくし野館は稼働率から整理すると1部屋がずっと空いているという状態なので、フリースペースを拡充させて子どもたちの居場所づくりへの活用などを考えてほしい。貸出料金が安すぎるようにも感じるので、値上げを検討すると同時にその収入はフリースペースの拡充に活用していく形をとってはどうか。ホールでは子ども食堂での利用もあるので、つくし野館も子どもたちの居場所としても活用を目指せるのでは。ホールについては、代替が難しいので、修繕を施しながら残すべき。利用者も多く、毎年の繰越金額も大きいので、例えばその80%を修繕のための積立金とするなど受益者負担の立場から見直しを行なって、活用存続させていくほうがよい。コミュニティの核になり得る重要な施設である。

【つくし野SC】

・郵便局の委託について国庫補助があるのかなど財源も含めて要検討。

・つくし野SCの代替案では直近2～3年のコストにとらわれるのではなく中長期的な視野を持って考えてほしい。

・つくし野SCは住民にとっては安心材料。

・行政のDXが進むにつれて、ペーパーレスが進展し紙ベースでのやりとりはなくなってくるはず。当面の間については、郵便局での代替も考えられるが自宅やコンビニで手続きが可能となっていくことも考えられるため、その点も考慮すべき。

・郵便局に委託してしまうとやめられなくなってしまう。現在の証明書等発行数や各種届け出数と近隣世帯数から考えると、各世帯が窓口を利用するのは、年に1回もないと考えられ、つくし野から、我孫子駅前の我孫子SCまで徒歩20分以内であり、駅の利用や買い物のついでに手続きを行うことも含めて、住民に理解を求めてもよいのでは。段階的に縮小する手法では、ずるずると長期化してしまいやめられなくなってしまうかもしれない。厳しい財政状況になっていくことを考慮して取り組んでほしい。

・代替施設を残してしまうと、ネットワークの維持やメンテナンスに経費が必要となってくるため、代替施設として維持していただくのコストがかかってしまう。ライフサイクルからすると頻繁に利用する施設ではないと考えられるため、費用対効果を精査し市としてコストダウンを図るべき。

市の対応方針

我孫子北地区コミュニティ施設等のあり方検討では、行政事業点検を踏まえ、次のとおり施設毎での検討を進めていきます。なお、各施設が隣接していることから、住民の皆様へのお知らせの仕方などについては配慮し、各施設の検討状況については市として進行管理しながら適切に進めていきます。

つくし野行政サービスセンターのあり方については、市の財政状況、地域性、他課における行政サービスの活用などを踏まえ、令和7年度中に方向性を決定します。

1. 今後、行政のDXが進む中、サービスセンターの利用状況や費用対効果を鑑み、代替えサービスの必要性の有無について検討していきます。
2. 証明発行が可能な「キオスク端末」の設置やつくし野郵便局への委託など、市民の利便性や財政的観点も踏まえ、代替えサービスについても研究していきます。

つくし野館とホールのあり方の検討では、次のとおり取組を進めていきます。

1. つくし野館については、コミュニティ事業の実施状況、稼働率、活動内容について検証します。また、ランニングコスト等の費用を考慮し、費用対効果等も検証していきます。

ホールについては、利用団体の目的と活動などの分析を行うとともに、地域住民の意向を踏まえたコミュニティ施設としての効果的な運営方法も検討していきます。

2. 地域の方や利用団体に対してアンケートや意見交換などを行い地域のニーズの把握に努めます。
3. これら令和7年度中の検討結果を踏まえ、令和7年度から8年度にかけて我孫子北地区におけるコミュニティづくりの拠点施設数、施設のあり方等を総合的に判断し方向性を決定していきます。

全体を通して、検討を進めるにあたっては、地域のコミュニティ力の維持・推進を前提にしながらも厳しい財政状況も踏まえ、あり方の検討協議・説明を行っていきます。また、各施設とも市民の安全の確保を大前提として検討を進めていきます。